

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472201951	事業の開始年月日	平成16年10月1日
		指定年月日	平成16年10月1日
法人名	(有) 湘南ホームフレンド		
事業所名	ホームフレンド 藤沢		
所在地	(251-0861) 神奈川県藤沢市大庭5448-2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年11月8日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人の経営理念でもある「安心・安全・安定」の三つの安らぎを福祉と生活サービスを通じて地域に提供していきます。御入居者様には安心して過ごせる時間を提供していきます。安全に暮らせる場所を提供していきます。職員は御入居者様が安定した生活を送れる様、日々、精進していきます。

入居者様やご家族様と職員が々時間を共有し、共に考え、共に支え合い、温かいホームを築いて行きたいと考えております。

当たり前の事ですが、入居者様も、職員も、一人一人の個性を大切に、今できる事を考え努力をし、「今」という時間を大切に公開の無いように々時を過ごして生きたいと思えます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年3月2日	評価機関 評価決定日	令和5年4月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急電鉄江ノ島線「湘南台」駅から神奈中バス乗車15分「北の谷」バス停下車して徒歩3分の幹線道路から一步入った清閑な住宅地にあります。建物の裏には「北の谷公園」や竹林、近くには大庭裏門公園、桜で有名な引地川親水公園など自然豊かな所であり散歩や野鳥観察、森林浴が楽しめる場所です。

<優れている点>

法人理念「安心、安全、安定」の3つの安らぎを念頭に優しく「いつもありがとう」の声掛けにより、利用者の「あなたの顔で安心する」との声が聞こえています。法人専属の看護師2名と在宅専門の医師が連携して日常の健康管理をしています。コロナ禍で厳しい就業環境でもフロアごとのユニット会議を重視して必要な利用者情報の話し合い、振り返り、改善案や学び合いを行う機会として継続しています。

<工夫点>

事務室のボードに利用者それぞれの皮膚の塗り薬やその日の状態を書いて利用者の容体の変化の確認を共有しています。プライバシー尊重のため、記録の書類は部屋番号で記録しています。利用者の身体動作により医師と連携して必要な場合は家族と相談してマッサージ師の導入を進めています。食事は3食共に職員が台所で作っています。障がい者の地域活動の一環と、清掃の徹底を兼ねて清掃職員として雇用しています。トイレなどの清掃を行い清潔保持と利用者の声掛けや見守りをしてもらうことで職員の業務軽減にもなっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ホームフレンド 藤沢
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各フロアに掲示し、職員への周知を促している。ユニット会議等でも共通認識が持てる場としている。	法人の経営理念「安心・安全・安定の3つの安らぎを地域に提供」をもとに事業所の行動指針を貼り出して日々の介護をしています。職員の「いつもありがとう」の声掛けが利用者の笑顔と自立への行動につながるよう寄り添いながらゆっくと支援をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍なのでできていない	自治会には加入済みですがコロナ禍により地域との交流は難しい状況となっています。散歩時にはあいさつや声掛けをして交流に繋げています。町内会の情報は自治会の回覧板などから得ています。春には近くの神社や公園での花見会などへの参加を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	出来ていない。コロナ感染状況に応じ検討していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	書面開催となって居るが、奇数月に報告している。	コロナ禍の現在は、運営推進会議は書面会議で行っています。意見などはFAXや電話などで受けています。会議報告書は運営推進会議構成委員の町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族に送り、事業所の状況を伝えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日頃からの連絡はやはり難しく、必要な時には連絡を取っています。	必要な介護情報の相談や入居相談を藤沢市の担当部門と行っています。地域包括支援センター職員や民生委員、介護相談員との会合や受け入れの機会を準備しています。	地域に根差す事業所として藤沢市担当部門や地域包括支援センター職員などの福祉関係機関との連携をさらに進めることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	全職員に対し、スピーチロックの禁止や、身体拘束をしないケアについて伝え、共通認識を持ちケアにあたって居る。ユニット会議でも議題に上げている。	身体拘束等廃止委員会や職員研修は毎月のユニット会議の中で話し合いをしています。振り返りと改善について話し合いをしています。今は「座っている」との発言についての改善について学び合う機会をつくっています。センサーマット、フロアセンサーなどの導入についても家族と相談の上導入しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々のケアの中で、言葉遣いやケアの手順等を確認し、虐待に繋がらない様、職員のメンタルケアに努めている。	ユニット会議の中で話をしています。「立ち上がり時の言葉のかけ方」など、職員間で統一した言葉かけになるように話し合い、虐待防止に対する理解を高め合っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	なかなか活用出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の訪問時に聞き取りする事が出来ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からのご意見やご要望に関しては常時、受け付ける体制が出来ている。特別に時間を設けては居ない。	多くの家族の来訪があり家族の要望を聞く機会としています。「ホームフレンド藤沢だより」で利用者の生活の様子を写真入りで送付しています。家族来訪時に伝えられるように、玄関入り口壁面には職員の介護への思い「一言」を添えた写真を貼り出しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別の面談や、隙間時間での職員との会話、聞き取りを行い反映させている。	個人ごとに面談をして希望を聞いています。事業所のユニット会議に法人担当者が参加して職員の意見・悩みを真摯に聞く機会としています。オールフルプラン（臨機応変に適切に対応する支援）を合言葉に、職員の創意を支援に活かす啓発に努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者会議にて整備の必要性や、職員の評価についての要望は上げている。	休息时间や場所を確保し、勤務時間・年休取得・残業は管理ツールで行っています。「サービスの質」について話し合い「タイムテーブルに沿って・出来ない時はチームで・声掛けは大切・テーブルは守るが協力し合う」を信条として運営しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	把握している。資格取得を積極的に進め、他研修等への補助金制度もある。法人内でも講師を招き研修会を行っている。	繁忙の中でもユニット会議は教育の身近な場として十分な時間を捻出し開催しています。事例研究や研修報告、改善を話し合い意識の統一に努めています。法人補助制度を使い、外部研修を受講し資格取得を目指しています。オンラインによる認知症研修も行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍なのでできていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談時、入居後の日々の生活の中で不足があれば都度聞き取り出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に楽しく家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初回面談にて聞き取り、入居後も不足があればご連絡し聞き取りを行って居る。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の要望、ご本人の状態に応じ出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様を主とした考え方をし、職員が共に考え支える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍な為、一緒に過ごす時間を取る事は出来ないが、必要な時は共に支えて頂ける関係作りをしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍な為、困難ではあるが感染状況に応じ対応を検討していく。	談話室を設けています。コロナ禍により感染症対策のため、家族との面談時に使用しています。その他、電話の取り次ぎや手紙の継続支援をしています。遠出の外出を自粛し、近隣の馴染みのある神社での初詣や花見などに言っています。歌の好きな利用者が多く、懐かしの歌と共に自分の良き時代を振り返っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の相性が有るが、関わり合い孤立する事無く支え合える支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了＝亡くなる方なので出来ていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	移行確認が出来る方に関しては本人の意向を聞き取り、ご家族を交え検討出来ている。出来ない方はご家族より聞き取り検討している。	リラックスしている入浴時の他、毎日午前、午後に行うレクリエーション時にも思いを把握しています。カラオケや体操などを行っているときの利用者の表情で推量しています。風船バレーから思わぬ意欲が湧き出ることもあり、形に囚われず多方面から思いを汲み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に聞き取り出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のケアの中で、把握に努め変化があれば職員間で情報共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	書面でのモニタリングを各職員から聞き取り、変化や、問題点がある方に関してはユニット会議にて話し合い計画作成に反映させている。	本人、家族の要望や医師、看護師、職員の意見を聞き、計画作成者が、3ヶ月ごとにプランを立てています。日々の支援の流れはオールフルプランで行っています。日々の変化はケア記録に記録し、携帯のSNSアプリを使用し情報を共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	紙の記録から、アプリへ移行し記録内容が薄くなっている現状ではあるが、職員間での情報共有は出来ており、実践し、計画への反映も出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様の状態の応じ、施設での対応が困難な状況になった際に、外部事業所との連携を図り、当施設での生活を継続出来る様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍な為、困難な状況であり、楽しみ等に繋げて行きたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	必要な受診はご家族のご協力のもと対応出来ている。	入居時に施設訪問医の説明をして全員が施設の訪問医を利用しています。医師、看護師の2回の来訪時に職員が立ち合い情報を共有しています。診察後は医師の指示書が届いています。職員看護師が週2回健康観察をして職員や医師に情報を伝え利用者、家族の安心感に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	グループ内を巡回し、週に2日支援している。変化が見られた時には適宜、連絡を取り相談や指示を受ける事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報交換や相談、退院後の状態に関する相談も出来る関係作りを心がけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	往診医、家族、看護、介護職員での情報共有、説明は出来ている。	入居時に重度化した場合の対応の指針や「ターミナルケアの支援内容」を説明し、同意を得ています。本人や家族の思いに寄り添い、容態が変容した時は家族、医師、看護師、職員で話し合い、ターミナルプランを立て共に支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的には行っていない。急変時や事故発生時の手順はマニュアル化しており、周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	出来ていない。地域との協力体制も築けていない。今後、避難訓練などを通じ地域の方との協力体制を築けるよう努める。	今年度、避難訓練の実施を予定していましたができず、年度内には火災避難訓練の実施を予定しています。日頃からの職員、利用者の防災意識を高める必要性を感じています。防災時の備蓄は、外の物置に三日分用意し、備蓄リストも作成しています。	地域住民の支援やかかわりを受けた防災避難訓練の早期実施が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応している。個々の人格、個性に合わせ声掛けのタイミング等を計っている。	今までの生活ペースを大事にしながら朝の起床時刻、朝食も個々に応じています。ゆったりとした時間の流れを大事にして穏やかに声かけしています。静かな時間や、歌うことが大好きな利用者に合ったカラオケの時間など、個々人の過ごし方を見守っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働き掛けている。会話をする時間を大切にし、業務の手を止め傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活リズムを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	女性にはメイクやマニキュアと言ったおしゃれを楽しむ時間を提供し、衣類も相談しながら選んでいる。男性は髭剃りなどの身だしなみに気を配っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方が少なくなっているが、レクリエーション等で調理をして頂き共に行う機会を設けている。	献立表、食材が業者から届き職員が味付けや調理法を工夫しながら毎食手作りの食事を提供しています。職員の調理の様子、香りや音で五感を刺激し食欲増進に繋げています。味付けや味見で食事作りに利用者は参加していません。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事形態など、主治医や看護からの意見も取り入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	定期的な歯科往診、毎食後の歯磨きは徹底し、ご自身で出来る事はしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンに応じての促しや、失敗に繋がらない排便コントロールを心がけて支援している。	ICT機器を活用し食事量、水分、バイタルチェックを記録しています。9種類の便の形態、9種類の尿の状態を記録して健康状態を把握しています。トイレに行くことを自立支援と捉え、おむつにならないように介助をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々のお体に合う下剤を薬剤師や主治医と相談しながら調整している。食事からもオリゴ糖やヨーグルト等を積極的に取り入れている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のタイミングにはなっているが、無理強いせず、浴後は皆さん「気持ちよかった」とさっぱりとした顔をされている。	週2回の入浴ですが希望にも応じています。拒否の場合は、時間を置いて声掛けをしたり、直接入浴の声掛けはせずにトイレに誘いながら入浴をすすめています。脱衣所のイスを利用者に合わせた低めにし、直接皮膚が当たる座面にバスタオルを敷き温めることで安心に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	表情や座位状態の変化に応じ、臥床休息の促しをしている。日中の活動量にも配慮し、夜間の安眠に繋げている。夜間おむつ交換が必要な方に対してはおむつ、パットの見直しを行い、交換時間を減らしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報の共有をしている。細かな変化に対し情報共有をし医療との連携もとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩やメイク、カラオケなど、個々が楽しめる気分転換の支援を心がけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍な為、施設周辺の散歩程度である。	天気の良い時は施設に隣接している北の谷公園へ散歩に出かけています。公園の大きな桜の木や樹木で季節感を感じることができます。公園周辺にも住宅の庭先の花、道沿いのクマザサや竹林を眺めながら散歩をしています。近隣の熊野神社や大庭裏門公園にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	必要に応じ支援する体制はあるが、認知症の方な為、物取られ等の訴えに繋がる方は、金銭をお渡し居ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じ出来ている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来ている。壁面飾りやカレンダーを設置し、季節感を取り入れている。音や光、室温に関しても配慮している。	清掃専門職員がリビング、廊下、トイレなどの清掃を行い清潔保持に努めています。リビングの大きなソファではうたた寝などをする利用者もおり、リラックス出来る空間となっています。フロアから出られるウッドデッキで茶会などもしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性等を配慮し、居場所作りをしている。共用空間で過ごされる方が多い。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	必要最低限な物だけの方も居りますが、入居時になじみのある物や写真を持って来て頂けるように伝えている。	各部屋から公園の木々が眺められ季節が感じられます。1畳の大きさがある押入れも完備しています。衣類やおむつなどを収納できる広さがあります。テレビ、タンス、戸棚、机やテーブルを置いたり写真、カレンダーを壁に飾っています。備品としてベッド、エアコン、照明があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレやお風呂には見やすい高さに表示をし、安全に配慮している。		

事業所名	ホームフレンド 藤沢
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各フロアに掲示し、職員への周知を促している。ユニット会議等でも共通認識が持てる場としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍なのでできていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	出来ていない。コロナ感染状況に応じ検討していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	書面開催となって居るが、奇数月に報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日頃からの連絡はやはり難しく、必要な時には連絡を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	全職員に対し、スピーチロックの禁止や、身体拘束をしないケアについて伝え、共通認識を持ちケアにあたって居る。ユニット会議でも議題に上げている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々のケアの中で、言葉遣いやケアの手順等を確認し、虐待に繋がらない様、職員のメンタルケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	なかなか活用出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の訪問時に聞き取りする事が出来ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からのご意見やご要望に関しては常時、受け付ける体制が出来ている。特別に時間を設けては居ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別の面談や、隙間時間での職員との会話、聞き取りを行い反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者会議にて整備の必要性や、職員の評価についての要望は上げている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	把握している。資格取得を積極的に進め、他研修等への補助金制度もある。法人内でも講師を招き研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍なのでできていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に楽しく本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談時、入居後の日々の生活の中で不足があれば都度聞き取り出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初回面談にて聞き取り、入居後も不足があればご連絡し聞き取りを行って居る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の要望、ご本人の状態に応じ出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様を主とした考え方をし、職員が共に考え支える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍な為、一緒に過ごす時間を取る事は出来ないが、必要な時は共に支えて頂ける関係作りをしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍な為、困難ではあるが感染状況に応じ対応を検討していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の相性が有るが、関わり合い孤立する事無く支え合える支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了＝亡くなる方なので出来ていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	移行確認が出来る方に関しては本人の意向を聞き取り、ご家族を交え検討出来ている。出来ない方はご家族より聞き取り検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に聞き取り出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のケアの中で、把握に努め変化があれば職員間で情報共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	書面でのモニタリングを各職員から聞き取り、変化や、問題点がある方に関してはユニット会議にて話し合い計画作成に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	紙の記録から、アプリへ移行し記録内容が薄くなっている現状ではあるが、職員間での情報共有は出来ており、実践し、計画への反映も出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様の状態の応じ、施設での対応が困難な状況になった際に、外部事業所との連携を図り、当施設での生活を継続出来る様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍な為、困難な状況であり、楽しみ等に繋げて行きたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	必要な受診はご家族のご協力のもと対応出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	グループ内を巡回し、週に2日支援している。変化が見られた時には適宜、連絡を取り相談や指示を受ける事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報交換や相談、退院後の状態に関しての相談も出来る関係作りを心がけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	往診医、家族、看護、介護職員での情報共有、説明は出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的には行っていない。急変時や事故発生時の手順はマニュアル化しており、周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	出来ていない。地域との協力体制も築けていない。今後、避難訓練などを通じ地域の方との協力体制を築けるよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応している。個々の人格、個性に合わせ声掛けのタイミング等を計っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働き掛けている。会話をする時間を大切にし、業務の手を止め傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活リズムを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	女性にはメイクやマニキュアと言ったおしゃれを楽しむ時間を提供し、衣類も相談しながら選んでいる。男性は髭剃りなどの身だしなみに気を配っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方が少なくなっているが、レクリエーション等で調理をして頂き共に行う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事形態など、主治医や看護からの意見も取り入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	定期的な歯科往診、毎食後の歯磨きは徹底し、ご自身で出来る事はしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンに応じての促しや、失敗に繋がらない排便コントロールを心がけて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々のお体に合う下剤を薬剤師や主治医と相談しながら調整している。食事からもオリゴ糖やヨーグルト等を積極的に取り入れている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のタイミングにはなっているが、無理強いせず、浴後は皆さん「気持ちよかった」とさっぱりとした顔をされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	表情や座位状態の変化に応じ、臥床休息の促しをしている。日中の活動量にも配慮し、夜間の安眠に繋げている。夜間おむつ交換が必要な方に対してはおむつ、パットの見直しを行い、交換時間を減らしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報の共有をしている。細かな変化に対し情報共有をし医療との連携もとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩やメイク、カラオケなど、個々が楽しめる気分転換の支援を心がけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍な為、施設周辺の散歩程度である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	必要に応じ支援する体制はあるが、認知症の方な為、物取られ等の訴えに繋がる方は、金銭をお渡し居ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じ出来ている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来ている。壁面飾りやカレンダーを設置し、季節感を取り入れている。音や光、室温に関しても配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性等を配慮し、居場所作りをしている。共用空間で過ごされる方が多い。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	必要最低限な物だけの方も居りますが、入居時になじみのある物や写真を持って来て頂けるように伝えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレやお風呂には見やすい高さに表示をし、安全に配慮している。		

2022年度

ホームフレンド藤沢

作成日： 2023年 5月 28日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	市役所や、地域包括センターとの連携に関しては、なかなか出来ておらず、情報が欲しい時や確認事項がある時のみとなって居る。	運営推進会議の対面開催や、その他、要所での密な連携を計りたい。	運営推進会議での意見交換。地域包括センターへの定期的な訪問、ご挨拶等を図る。	12ヶ月
2	16	防災訓練や地域との協力体制も築けてはいない。日常の業務に追われ出来ていない状態である。	定期的な防災訓練を行う。日程などにより地域の方にご協力頂けるような関係性を築いていきたい。	自治会活動への参加を通じ、地域の防災訓練の日程等を教えて頂き積極的に参加し、地域の方々との交流を深める。自主防災訓練も年二回開催する。消防署の協力を仰ぐ。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月